

「第4回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座」

西北地区：令和7年9月12日（金）つがる市生涯学習交流センター松の館 受講者11名

三八地区：令和7年9月18日（木）八戸市総合教育センター 受講者23名

1 内 容

【講 義】「気になる子どもの理解と対応」

講師 青森県発達障がい者支援センターDoors

センター長 ぶんばい あつし 氏

【演 習】「あおもり親楽プログラムⅡ」

進行 県総合社会教育センター職員

【経 歴】

6年間、宮城県仙台市の知的障害者更生施設で勤務したのち、平成23年に社会福祉法人 豊寿会 妙光園に勤務。妙光園では、放課後等デイサービスで自閉症支援や管理者等を歴任し、平成26年に社会福祉法人 豊寿会 理事長、妙光園 園長に就任。平成28年より、社会福祉法人 豊寿会 青森県発達障がい者センターDoors センター長に就任している。

法人経営・運営の他に、三八管内スクールカウンセラー等を兼任し、発達に偏りのある当事者及び保護者の相談の他、学校現場や保育園等で子どもとの関わり方に関するコンサルテーション、発達障害や子どもの発達、子育てに関する講演等を行っている。

【講義要旨】

「気になる子どもの理解と対応」

- ・子どもとは、「脳や身体が発達途上にある存在」である。
- ・子どもと関わる上で最も大切なことは、子どもの目線（目と耳と心）で物事を観察し、考えることである。
- ・子どもたちが求めているのは専門的な技術よりも、母性的な関わりである。指導しても何度も問題行動を繰り返す子どもたちの背景には、乳児期、幼児期、児童期で獲得すべき発達課題とテーマを乗り越えられなかった、親に安心して気持ちを出せなかった等の要因があると考えられる。
- ・「発達障害」とは日々の生活の中で、多くの他者とは違う感じ方や考え方をすることで不安や緊張・孤独等を常に感じ、生活がしづらい状態をいう。人と違う感じ方や考え方（発達に凸凹あり）でも適応できていれば「発達障害」の状態ではないし、病気でもない。
※発達の凸凹の代表的な特性には、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）などがある。
- ・「気になる大人」から「気かけられる大人」へ。大人の理想に近づけようとするのではなく、ありのままの子どもを受け止め、理解することが大切である。

2 受講者の感想

- ・これからは気かけられる保育者になれるようにしたいと思いました。1人ひとりの子どもの特性を把握して、子ども達のより良い幸せな楽しい時間が過ごせるよう支援して行きたいと思っています。
- ・子どもの行動に対する理由を理解しようとする気持ちが、自分には不足していたと気づかされました。子どもに対する接し方のみならず、保護者への接し方や連携の方法も学ぶことができました。
- ・自分もいつも「ちゃんとしなさい」や「それはダメ」と毎回同じ事を言っている感じがします。これからは、もう少し子どもと向き合い、声を聞いてあげて安心して過ごせる場所を作って行けたら良いと思いました。

